

KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT



焦尾琴風

和5
1974
92



1974
3



焦尾琴

舟船の記

一日琴凡亭のありて二挺こく船の
時をちくちくさるるふしやとて
念のこゆるあまのしも何れに吉く
き、氣をとりすめては徒らに揚墨りとも
かゝり落安樂の果に驚いて八困り
を明りす文をうらやむ人生の限あるを
や心きし志に屈せるものごとくあり



なま子南。大橋をへて上^三まつちのめと
今戸の橋よこま入^一瞬のる^一万里の
思ひをめぐりし^一箭ありもとく^一翔あり
うろくいさみある色を帆子あけて数
十艘^二の舟まゐる子遠く^一も有^一笹の
柴を打ちし^一なるに似たりとや^一減^一
似たり船^二に火繩^一くゆしてほ^一ちま
えちふ^一てし^一み^一くれ

其引

川上ハ柳^一むめ^一百^一子^一其角
何上ハ人^一音^一ちめてほ^一ち^一百里
大橋^一や火^一煙^一を^一れ^一み^一二^一心^一江^一墓
一^一身^一衣^一袖^一の物^一を^一む^一め^一柳^一手^一寂
申^一す^一と^一あ^一ま^一め^一め^一の^一板^一外^一浦^一盛
初^一ふ^一や^一人^一看^一板^一乃^一や^一舟^一於^一豊
涿^一抗^一や^一月^一の^一是^一より^一次^一才^一高^一楓^一子
白^一魚^一や^一の^一か^一の^一火^一ハ^一た^一り^一り^一白^一柳
蛙^一鳴^一唐^一土^一を^一志^一く^一二^一挺^一立^一物^一ま

凡挑深もはうりほりし洛ふのかみ桂
てそ長安の渭水注風を吐あうりて
奇絶漫とれ就賞なるよこもすの
江南のまのつる花梢よやらの立のほ
らん詠とらし寺の敷八十八みかの
あ女の樓臺ハ雨のほよ雪の留りのよ
詩のの淵流をのつろく密くみ満る
このもかのも北岸の山のたぐにや
まぐ雲よ儘各岫を吐あうりあつは

えりはし芙蓉峯のよ入をてぬ日の際
くとも高よむれとくもゆく何の虹と
しらし橋のあつる子かたりて辰中
あはも瑞代の瓊龍をのくくれ

具引

無山の富士み並や秋の昏 其角
富士書れ碑すあすは秋の海 口遊
天川角のあつるやうりあり 楓子
一刷毛ハ横すれがり天の川 山崎

少子よやとせ綿をさく川簀垣 朝豊
 橋よよ鮮をひくくや笹のあ 新三
 罌の目ハ網子とくくく 同
 舟沈の臍すくく 施餓鬼旗 竹苞
 泊の系志やくも 其零
 水門の内をよひせんとくく 序令
 舟やりよ小鴨あうくく 百里
 末口ハせこの藤よあま 酉花
 大橋乃下乃あうくく 飛 蟹 文士

堤ほくくの人^{キカヒ}の交加ゆ 小三
 田くす馬ありこれくきあうけて何れ
 あうくくい控くの石あはしくり放散り
 風月子とあせるあり松のをのつう竹を
 志んりてゆきゆきなる久くおきくいと
 ちうくく石原の推乃志くくく 小
 人目おれ船の境子ハ小家さくく
 きらててあていさく川すくく 漫^{三々}
 くる皆この流子入

其引 所の産を寄て

卯のや何よとある海苔の味 其角

卯白の下級ひちて 蜆より 午寂

雨や篋子千海苔の片のり 文士

幕は小川の色の比や郭云 序令

推の本よ衣たむ中村の雨 同

浮をの航仁組し 余情川 景帝

すまの取ゆりし松浦浮 同

建坪の影よこせつ小菘り 白獅

幸はくき方の飯るや 昔松 其角

親の義ハ山吹の隙や去りぬ分 同

舟をきこふ理もは出て十三夜 秋航

雷乃樓のうらや 必八手 百里

夕日や女中よ為す川を委 同

村もや川をたふすつて 甫盛

浮くくらう成るり 土筆 堤亭

掃藪は秋天は色し 昏乃野 鈴叟

夕顔よ衣たけと賣名号 其角

河上の音楽あり

笙の脰是も帆の法の友木立 午寂

おとのけの莖を交は菜螺の 同

こほるこの舟をよせて

此碑てハ江を哀まぬ 量小其角

あらたもぬけの舟や交る月楓子

長江の心を流しやまる名ありあい

るの心ハ林くりあり清志つらあい

わらり獨木為梁と清け付る色

阿へとはハ果素をならしまゆる

木陰も門はあけりるをらるあい

あせをおものをら花をあさげる

車をむく輪を送る

寮坊主のまはハ時多其角

下園や牛の市前を版はり百里と

二の足はららし平涼風呂楓子

ららの戸ハあらるトて花火也序令

はららも四つ下り猿の舟朝叟

涼月や通ひ小姓のかりめ立 景帝
水小座の夕立是や東討者我 午寂
かよつらん早の腰のりつぎ 朝叟
是や皆あを吹く下すのみ 其角
櫻よハセつあきあや下むせぬ 百里
不宿酒や宿病よひ出に姥り 其角
遊弘福寺
木屏下六尺四人唐めり 同
木兔の布袋あむくや月の 竹叟

唐僧の寔生^ハあまるう猶うり 午寂
長陰や露映ハ僧のたつた 彩志
唐音を舟へうつて 踊外 紫石
田原緇^シ深のものとめて至る所あるは昔
今ちある風情としハ老の物るは 竹叟
はやく取しむす^ハ新をじわし此川
波子もあやせぬるもあまの未を汲か
きハく賈島く句は獨過潭底影也 竹
と三子子ゆりともやあを木のもも

体と居れど御の上よ小菟えりれ昔の
くりなもあまの寺しの鐘の色
菴の念佛玉あつする火乃新よ
尾屋にけりあしやあへたでハ誰
しも夕のあほし昔の虎玉の御
はぶやく一も都人おあつて

其引

烏帽ふきん 永良いさ 都る 其角
青板や世るむきある 舟よ志 船奥

念佛のくふも海より柳か 波登
松原や菊の裕て天しめ 五郎
おとりあふ水てくる西血外 提亭
味噌搦をきくくもや花房 百玉
迷子の例先みりや斤新 停令
宿下のうもあとし妓王村 午寂
平舟の糸よりのみあはれ 新玉
宿みし杜氏もかのみ移分 朝奥
あねや置^{ヨツテ}りかふるか 波登

先年月見のよほけり

木女寺よそのの舎ありけり 其角

紫平の休息ふも所後か 波交

灯をあかく薄や波り音 大町

浅茅原吟行 付 田家

頼すりやなもハ人よ虫屋迄 其角

あれるや浅茅うきおる夜 同

立病のかくん池や蛙さく 景帝

ぬきてあるも舎のつてや斤鶴 新三

初ちや実のあるるをハひりたり 朝豊

芋虫を化生退治やあさちり 紫衣

簞下瓦灯火入る病もは 一邑

春雨のとうやよるのけあれか 堤亭

玉汗や固炭をぬるまのる 此美

雪の戸や堆り先こは茶のま指 序令

追分や足袋で撮つく雪乃供 其月

耕作の屏風の端や梅柳 紫衣

玉水や矮子の白ひも葉 衾 白獅

総泉寺

大さの田がよたつふ牛もろ
 序令
 沢原や千住の斤掬ん煮じ
 朝叟
 浦ちりう蛸子ほうるこてふ所
 彩真
 刈麦や巴う白おやり届り
 午寂
 化装やモロコシ焚玉黍の骨をうり
 其角
 うすき子珠れる筋や家流ひ
 酉花
 白の目を女も切りはゆの子あり
 序令
 ぎらうるの腥綱そををれし
 其角

帰棹吟

髪を焚柳つ運ばし星の露
 其角
 例せんと鞠うらけり人器す所
 彩叟
 冬枯やるもあう世亦打山
 彩真
 追出を子秋まきむ火火
 附風
 女房はてしちんおや草の露
 昌川
 子舟と親子いをまれふる時
 南盛
 そぬげらる様のやよりやめり
 舟
 波麥
 棹の子子頬の故をばる海外
 午寂

引汐の氷、越ゆきののこり、
か、せま、おろけ、電のな、藤外、
所り、を、摺、舟、底、う、せ、し、家、姑、壺、
は、り、ま、の、筑、波、鳴、出、て、星、い、は、
式、波、ち、も、思、い、ぬ、波、の、あ、ら、ん、か、
幸、俊、の、路、巾、を、志、が、一、浪、の、上、
水、鷗、と、ハ、飛、多、川、を、る、酒、を、か、
漕、つ、け、て、岸、の、た、か、つ、我、を、
有、的、や、波、を、あ、ら、う、の、君、と、伯、父、
紫、お、
午、寂、
波、奏、
其、角、
堤、亭、
酉、花、
紫、お、

舟中月とりのを

亡父東明

梓のるも、あけひ、お、あ、あ、ね、を、
月、の、ひ、あ、り、は、さ、し、や、う、あ、ん、
お、の、あ、ま、つ、所、は、し、り、あ、い、を、

醉狂 三弄

三橋流三記、洲、浅、草、指、潮、暮、深、川、
出、塩、秋、尾、花、波、寄、更、行、月、歸、去、來、
今、這、船、頭、

風、雅、を、こ、の、む、一、年、ま、六、院、が、ら、の、三、五、

魚智のおしりをおしけして自然の友を
あゆみよふ二三子の膝をのべけしうた
方丈の志つゝいも一時的業をさる中
とらや垂我巴をのきくもあつた
あつた川をさすおこ道逢のたを
促すテツチ十六の丁見も心世道ありあ
水茶屋のさんま女よあつた
もてあつた酒を掃去な分
雪あつた二枝よあつた山陰の戴達を

昔買よおをいふ

向んを舟中主人あつた人猫を
とりのせて蒲団引のり院中み思
いあつた院をを藤相お李日亦
醒々を今の屈原かの大種れ苦
のこ忘れて分別の栖を志むるもそれ
あつたあつた已無心あつた舟の
るゝお悩み漂泊してあつたあつた
一瞬の櫓をおおつて生後を勘破ス

晋子醉書

晉子一瞬行成而後ありあれ平
 五十句を寄は句まに船中の
 形容をそあてて風物の樂送
 それらの歌賞を求むるも一
 生涯乃きくあるまよは情を越
 方大をうらやあつらふと五人
 一等の醉言あ方の白あん
 すは下り硯を仕まへり
 朝叟

霜買の弱求てや流し魚

そき揚枝みハツせしの萩 具角
 霞の地味少くも月影下 東潮
 宿鴉ハ 袖乃し 初み 新真
 梭の喜以こす方小歌出と 序令
 茶碗ほくく人をあかると 叟
 一葉の男よあふふ 中 晒 角
 月心傘下口上りそふ 激
 ゆりこかれ龍眼肉も琴のあ 真
 出家子志ぬる眼美ハ骨理 令

以灯を世うくえれをなす飼 儼
これハ世を浦島、飯 角
働ハ亭よりかす寸相おちて 令
昼夜の損と秋のすすてぬ 叟
よい月と本町の色枯れ 去
一様^{イニ}幸よあれを波のよるる 儼
小坊を挾おく、傀儡師 角
袖の重荷の簾をうれつく 令
白雨も茶つけてはあふ世中よ 叟

あもころ朝ハ誰殿とへる 叟
薄へよあ葉と土のおけり 儼
家徳利りつめハ 橙 角
子^{フタ}の策ハ大念佛よこりて 去
あを流し糸ぬいて東海 叟
雀乱の産路よ權乃きりて 令
雛子のくちばりきり 儼
既中きりて花かりし人よぬ 叟
力かろん唯海の 笹 去

浮世給又軍ハんくつりまひ必 令
ありくはを割札の響 角
融公^{キミ}二日三日の月冬蝶 淵
ほりてとくく天人の海苔 去

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 融公 and 天人.

序

松下杖人

交共をのりよるぬらむはじむは
あやのゆく千古の初源公未流細流を
わくそり舞牛の具角集を唱へて
焦尾琴と号は焼桐の朴目こゆや
うりかす木の良材おりのあまきて
えんしやかうく侍る五三このらよの
海老ありあゝの君のかりひのしよよ
ひうれてあれを何とそ燕の巣よかまき
けろくとおこび祝舞のせくれけ

ゆく〜琴乃二曲てりしをう〜とみ
きて〜れ〜たるこの色咲かよ〜む
珠子とやうの能猫の化物ありん
子猫の昔姿とのす〜をわ〜と
造物の筋をとりしあふの〜おこの色を
う〜て日あるを好む眼をひ〜ふ
赤の中のものさ〜を〜ふ彩〜を
仕〜し〜しりの袖をみ〜る花彩
桂陰林泉窓雪の〜の〜と
す〜何れと〜と〜と

古麻恋句合

初恋

切戸ろ〜尾骨見えめて玉うつ〜 秋鮎

足跡を〜猫や雪の中 其角

恋、

山々の尾丁そ火をけせち局 三弄

ひ〜りぬ

猪木尻を〜し〜三目猫 糸外

切〜

下〜ゆ〜あよ思ひや梨の舌 楓子

くしみ

くはのそ乃恨之助や 男猫 周東

かんくはすい

あぐりれて琴柱をすやまの猫 眞夜

変恋

松山と袖丁はねこのあらし 鬼冬

侍

夕やこやうちとんせてはうけ猫 三黒

梅うんや鼻何々 塙の笠 堤亭

恥

面もせもあつあつおの額白 秋叟

老

玉藻もや名のうてゆる舌老猫 紫子

己う背をこころもこころけ猫 秋色

切

簾木の百目あまふ子又うれ外 其角

秋糸あうせあまの尻仕うち 酉花

穿枕

針や糸目ふりこてる海うら 其雲

よれ枕移その風中もけん衣 秋航

寄焼、

うつくやや四乳のぬり焼

寺御

舟猫やをのり占すわあつらん

利合

寄巻、

おそれの子軽やうや坊主猫

扱子

寄薫、

おゆけや咽もあつた尾猫

十流

寄占、

尻くくやちもひあつて占

適三

灰うら子向しぬこや七不思儀

孫香

經年、

いつたよ鼻はけりて猫の子

銀杏

迷、

あり揚る刀いあつて主寮猫

馬黒

寄繪、

白彩る猫の尻目や繪を皿

川支

寄書、

うき思濃茶めいらむつけ猫

野徑

契来世、

男の皮を日く思ひつぬ老尾

硯水

白地、

歌よけのぬぎのねこやけしと衣

酉花

餘光、

悪やせを極よもはるし 腋の蚤

朝叟

女房を洗へる猫や華清宮

午寂

非紙、

高板や尾よ付くくく三輪の巨匠

甫盛

寄標、

啖もせて階子を伏せぬ乃あふ

山峰

尋、

名神よかくくくつもや二世と

同洋

絶、

鳥病やわれをけむむ藪一把

治川

初、

うらりける人を初瀬のやまに猫

波琴

悟、

祈くれて口を師あむむや般若猫

新玄

仇、

几中の尾よ預れる猫はつあずかり

倚窓

寄寺

柏木の柳もどれりあり猫 其角
古ちや赤手押を虎所お 波登

述懐

寐もやして長く猫の日陰外 入松
墨際と思ひをてくろ鳥お 紫死

寄月

白玉り向来るぬこ蛙 腫月 毎用

寄日

思いのそ日みむく腹ハ布袋猫 序令

寄鳥

あつ灰をかへる鶴乃かきん 百里

昼

昼ハめて雉士と並よや火傷猫 心水

夜

煮ころもや猫の白波をすあり 午寂

春の糸をいつ角やよこれ猫 堤亭

思他

きり猫を柳うろ落す猫の数 沾徳

飯くつをきり方と祈松おこ 其角

急病

こよりのやゆるを^疾入^疾病^疾

大町

断^断々^々小倉傷^傷つじ^つや^やり^りま^まお^おこ

昌川

祐棄、

西ひのかりいす^すと^とや^や派^派座^座猫

白獅

実床、

塗桶を^をわ^わに^に粘^粘り^りあ^あて^てま^まは^はま^ま

口遊

寄垣、

魚串を^を喫^喫て^てあ^あの^のや^やせ^せく^くろ^ろめ

紫衣

寄関、

包^包ま^まれ^れて^て糺^糺れ^れど^ども^も急^急の^の案^案

新典

寄石、

石^石白^白や^やわ^われ^れて^て中^中の^のり^り猫^猫の^の情^情

新拍

寄海、

う^うき^きま^まや^やい^いふ^ふち^ちあ^あん^ん簀^簀巻^巻猫

角枝

不定、

何^何り^りま^まう^うく^く原^原第^第猫^猫下^下身^身縁^縁づく

牛寂

疑、

腰^腰も^もう^うの^の三^三人^人静^静ハ^ハい^いま^ま猫

同

花^花の^の号^号が^が蝶^蝶子^子似^似り^り辰^辰之^之助

其角

寄琴、

花のおや猫の管絃ハ琴の役 野徑

寄鞠、

蹴りまやまもん流の猫の曲 里东

寄窓、

深窓の顔をあつるや秘菴猫 岡指

寄几帳、

多几帳ハ三毛と片のめぬ色紙 適三

寄屏風、

搔破る屏風はしや妻の袷 揚葉

寄帯、

男猫とて七巻すや帯の帯 南盛

寄遠、

新く身を好むおこのおもひか 川友

寄池、

うられ池といふ窓ハ中投おと 其栗

忘、

浦のいひや懸あくの忘艸 紫子

貴、

ぬき衣や綸子を叩る位猫 乾叟

被_レ控_レ賤_一

己_レ毛の着_レたるをや_レ恋の勝 其_レ下

觸_レ物催_一

陽_レ多_レよ_レて_レて_レ有_レ世も固炭猫 埴_レ亭

隔_レ夢他_一

梯_レ多_レハ_レ及_レハ_レぬ_レ恋_レ屋_レ既_レぬ_レ 朝_レ叟

近隣_一

京_レ町_レの_レぬ_レこ_レぬ_レひ_レそ_レり_レ物_レ屋_レ所 其_レ角

寄塚_一

恋_レ塚と猫_レよ_レ子_レせ_レらん_レ横_レか_レらん_レ 茂_レ石

乱_一

恋_レあり_レく_レく_レり_レあり_レも_レぬ_レく_レ 甫_レ盛

表_一

と_レ念_レぬ_レこ_レみ_レぬ_レを_レす_レく_レや_レ物_レ狂 新_レ真

水_一

立_レ猫_レや_レ唐_レ猫_レの中_レの_レけ_レく_レぬ_レこ 赤_レ瀬

進_一

君_レや_レ其_レし_レ面_レく_レく_レの_レ如_レ合_レ終_レく 春_レ船

寄_レ風_レ俗_一

立_レけ_レく_レく_レ今_レも_レ我_レ國_レの_レ娘_レ猫 白_レ獅

忍切、

忍切、水映炮や光ぬこ 潘川

人傳、

蒲公やぬこ袋へあたりぬこ 波多

寄雪、

焼より伏見常盤より猫 案取

寄雲、

色ぬぬの高万のさう 既痛猫 朝豊

寄松、

礼寺や松より六寸梅よりけ 序令

寄竹、

皆これこそぬこ 相や梅より 其角

寄烟、

胸より扇尾の姿や海百山 午寂

孫末のもえて虎毛乃燈外 乍之

急立、

首玉の家名や位しやこの声 狹航

大梁に各ハ立ゝあうたひさう 到李

髷髹、

らりとに猿ハお髪帽子猫 新玄

久契、

菜箸をくわいて猫の連理、 午寂

失籠、

子をくわひ恋のむくひ、因杲猫 全阿

不馴、

る下、あゝぬまじ、田舎おこ 千琳

場、

ゑう裾定家うゝや二歳猫 曾花

寄舞妓、

恋後の猫の狂言ゆめ、り 堤亭

娘、

のりけよ、うけ、や猫の娘 琴風

舟、

いつの代よ、まひまぬ、唐の種 景帝

客の蟹、

海士なり、て、ろ、あ、や、電猫 兵外

求婦、

吉日をまゝ、ある、こ、や、揚、さ、め 皷白

尚れ、

かい、巻、の、毛、を、お、守、せ、て、と、存、の、猫 周東

多雨、

春風や瓦灯も御守の苗守居猫 堤亭

寄芭、

焼物や泪よても家蒸る猫 里東

人よりこそあつてもうらみかき

耳あつてくちあもあつちあつち 其角

唐様のそとふらさあつち

おのし切あつちあつちの眼は 別度

遊禅林

うらみあつちあつちあつちあつち 三季

潜上猫あつちあつちあつち曰

秋来前軍取^ク猫死^シ窺^ヲ翁^ヲ翻^シ盆^ヲ攪^キ夜眠^ス

聞道^{ナラシ}狸奴^ヲ將^シ数^ヲ子^ヲ買^ヒ魚^ヲ穿^シ柳^ヲ聘^ス街^ニ蟬^ヲ

山谷カ猫ヲ乞フ詩也猫死テ大勢ノ胤

ドモ秋ノ夜スガラアレハルホドニ山谷ヲモ

アナブリテ盆皿鉢ヲカヘレテ亥レクテ

子ラレスト也サレバ猫ヲモラヒテ畜^{カハ}シトナリ

此比キケバ家ノ後園ニ狸共子ヲイクモ産

ケルホドニ猫カ居ルトシラバ一類ナレバ悦ビテ

魚ヲ買テ柳ノ枝ニサレ貫子テ人ノ如クニ

礼聘^イシテ祝義ヲ述ヌヘト也 銜^{カニ}蟬^トハ
猫ノ異名也 花山院の所製^リもの

爰^ニ時^ノヤサ^ニシ^テハ^ハあ^らぬ^く猫^を

さ^みみ^くあ^まと^と求^め出^す所^と

御^然も^とち^とせ^く所^と祝^句ハ

猫^の毒^竈の^岩あり^ぬり 翁

天^あや^しひ^なを^猫の^つ尺^ト

お^もり^のい^て只^もん^ご急^一鉄

猫^の毒^妻夫婦^とい^うも^のり^ト宅

あ^らり^ぬく^そや^け所

詩仙の小序

三弄

陶^五弄^り藜^桂の^幽義^{なる}ハ^峯崎^乃
さ^きふ^及た^に李^王の^変化^ハ天^狗
厄^神も^おれ^ぬし^大曆^己序^のく^せ
その^元祐^乃才^の男^だて^奉を^擡
は^りあ^らぬ^世の^末の^わら^せと^せら^れ
彼^をさ^らり^めて^雪も^すく^所は^福
際^一綺^字繡^言を^切子^也と^て閑
窓^ニ三^計十^菜を^もて^かす^より^股
う^ちわ^くを^醉し^あま^そて^喚も^起す

枕のくれあゝるも風よ破れし窓棧
あゝのこゝろめくは梅ら寒ららる

午寂

陶淵明

酒漉コシく

亦ハ巖石を雪の朝

杜子美

絲ひ絲シひシ

葱子キ乃サキ之キ末キ刻キ

其角

李太白

巾シリリ番バ也ヤ

不上船ハ子カキアハス 亦知ヤ之シ事シ

全

岑参

南ナ蛮マ移シ中チ

星シ乃ノちチ海カイ影カゲ

寂

王维

西シノカカ

返ヘくク詠エイをヲしシんン
関セキのノ月ツキ

日

山谷

其ミメカラをかカ馬バハ

雷ライ

角

陳后山

紅ベニ葉ハもトくクくクをヲ

繪エをヲりリ海カイ晏ヤシ寺ジ

全

東坡

百ヒャク子シちチ海カイ色シキはハ波ハ

乃ノ聲コエ

寂

司空曙

秋高千黄金

用ひてくさ

寂

許渾

こゝろ世間の甲子

角

梅聖俞

性やはちを袋に

入る猿じ

寂

韋應物

所化う起つて亡命児

角

張籍

つゆしるき

衆ある十九人中

全

趙嘏

二階乃笛

斤刃知は月

寂

李群玉

擗蒲已多一万千

志事海手りくは

日

皮日休

漱うく洗

花種小泥

角

宋之問

老北を隊かあるに

人北下みして

全

白玉蟾

風中千加勢の

つえ乃雲あり

寂

蘇蓮

高名輪（か）の（を）
の（と）牛の（轡）
寂

温庭筠

梅乃（キ）豆（ス）
豆（キ）查（ス）ハ仲間の（を）
角

李涉

湯も（り）の（門）
獨（リ）看（ル）松（ヲ）
全

黄知命

足（を）倉（庫）に（こ）
黒石
寂

杜牧

按摩（も）の
貴人（頭）上（も）
月

陸龜蒙

陸（禅）の（影）を
正（し）
角

邵康節

年（の）ま（れ）ぬ
傾（城）
全

花英夫人

か（た）
一（ヒ）箇（リ）男（も）あ（る）は（な）
寂

尼妙靜

邨（郷）の（る）を
あ（や）も（は）伏（ん）
同

王建

の（と）
小（指）も
同

周賀 以雨^ニ 灰をうらほ家 角

王元之 強^ニて狂言をつくる 今

盧仝 鳴川ハ 鹿とぬゑるも 寂

孟東野 羽二重のハ密しきぬふ 角

賈島 千期をゆ^{かきく}の 是故郡 寂

韓退之 長屋のうらりふ 角

棄^{ハナ}家短藥

白居易 東^{ハナ}の船 花をよみ 寂

謝靈運 お籠てあそぶ春州の夢 角

若^{ハナ}宿人の二首をよみしを名を題ス

後叙

泮水之點止竈井而已

存矣鄉サキニ番子之巢カシテ羅災

而止妻兒奴婢及雞犬

無恙而已鹽米衣巾黍

酒之具皆為烏有而莫

一存焉漆園也所謂無
何有鄉焉者於晉子有
好言嘗知晉子之憲有
一箇古綿囊也其囊
耶江山風月可以納之
野馬塵埃可以攝之

天地之間髮髯乎身
目之物莫不敢於矣
晉子平生之工出人總
于此囊中而已於
晉子太息謂家婦曰
噫此囊之為烏有雖

白鹽米衣巾中就處于微
官則不餓不寒茶酒之
具亦不足惜焉幾惜於
消折家平生之主人家
婦乃起席曰叔之已而
今也奈何奈何採得

其囊中物略存于骨次
者以之為幸耶不聞
蔡邕之嬰桐以得妙
音耶者子其乞尔去而
後經是日時之家得
巾筒反古之中者什

二三拄之乎杖于花溪
船于晚凉車于楓林
于雪之而固乃色之志矣
且夫人伐木丁丁黃鳥嚶
為晉子求友之於也
鳴蛙之鼓吹為晉子和

曲也終能續其音
而以此書已成矣以蔡之邑
之相同其名者其可也
午寐散人書于

胡平之



日本橋万所

萬屋清兵衛版

寛保三亥仲冬

淺草廣小

淺倉屋久兵衛

再版

辻村五兵衛

7

克保三六付冬

日本橋万所

萬屋清兵衛殿

長屋山久兵衛

辻村五兵衛

并殿

